

令和4年「地盤工学会誌」優秀賞受賞者の決定

令和4年「地盤工学会誌」優秀賞受賞者が、令和5年2月9日の表彰委員会において下記のとおり決定いたしました。

【「地盤工学会誌」年間最優秀賞】

受賞業績名／業績発表文献	受賞者名
フレッシュャーズのための『続・土質力学』 第12回 有限要素法とハサミは使しよう、講座を終えるにあたって／2022年3月号掲載（講座）	若井 明彦（群馬大学） 細野 賢一（（株）地層科学研究所）
<p>●授賞理由：本記事は、数値シミュレーションの一つである有限要素法（FEM）について、FEMによる地盤解析の種別や解析モデルの分類から、解析領域の設定や要素の分割、境界条件の入力といった大まかな手順、不適切解の例示、トンネル掘削工事を題材とした実務での応用例、CIMとの親和性まで幅広く扱い、分かりやすい図と親しみやすいイラストを用いて丁寧に解説されています。著者らが計12回の講座を振り返る座談会の様子も、著者らの顔と苦勞を知ることができるとともに、若手技術者に向けた本講座の将来の展開を期待させるものとなっており、多くの読者に支持されました。</p>	

【「地盤工学会誌」優秀賞】

技術者を悩ませる特殊土のコレクション 第2回 高有機質土の工学的性質と設計・施工の留意点／2022年10月号掲載（講座）	荻野 俊寛（秋田大学） 山添 誠隆（秋田工業高等専門学校） 西村 聡（北海道大学） 林 宏親（（国研）土木研究所 寒地土木研究所）
<p>●授賞理由：本記事は、主に北海道や東北地方に分布する、植物遺骸が分解の不十分なまま堆積してできた高有機質土について、その特異な物理的特性、ばらつきの大きい透水性、粘土と大きく異なる圧密特性やせん断特性などの工学的性質を分かりやすくまとめて紹介し、それらを踏まえて、すべり破壊、沈下、側方流動を含む地盤変形、地震による液状化など、高有機質土地盤における盛土工事的设计・施工上の留意点やその対策工に関する留意点についても解説されています。特殊土への理解を通して地盤工学の幅広い世界に関心を持ち、実務の参考にもできる講座となっており、多くの読者に支持されました。</p>	
真摯な技術者がコンプライアンス違反に陥る遠因とその対策 地盤工学プロジェクトに関連して技術と社会心理学の視点から／2022年12月号掲載（報告）	龍原 毅（パシフィックコンサルタンツ（株）） 膳場 百合子（早稲田大学） 小峯 秀雄（早稲田大学）
<p>●授賞理由：本記事は、福島第一原子力発電所の事故を題材に、技術者の視点と社会心理学の観点から、地盤工学プロジェクトに必要な対策について具体的な考察を行ったものです。発生確率が低くとも、発生時に許容できない影響を生じる事象には的確に対応すること、関係者が情報開示するほど非難や経営上の困難にさらされる現状を変える必要があることなどを述べられています。「技術者が意図に反して倫理違反を指摘され、社会から非難されていることがある」というのは重要な指摘であり、その対策と提言が多くの読者に支持されました。</p>	

（注：敬称略，受賞者の所属は掲載当時）